

第一章  
道  
I



## 祈り

父なる、母なる神。私どもが御身の優しい祝福を、このハートにこの生命いのちに感じとれますように。御身の力と御身のめぐみによって、願わくは、私どもに力と英知とをあらしめ、御身の霊の光と真理とが輝き出ますように。願わくは、聖なる黙示が私どもの心に次第に深く染み通つていきますように。されば、我らが靈性進化の道程を歩くにあたり、辛抱づよい者であらしめたまえ。一つまた一つと、神の御計画の深い目的を分かせて下さい。御身の御名において、英知と愛の天使たちをこの集会に迎え入れ、祝福を請います。

## 前おき

再びお会いできましたね。こうして人間の言葉で話すと、波動の美しさが傷つくんじゃないかと少々案じます。音楽で心は高まっていますが、私どもの感じをそのまま皆さんが受け取って頂けますやらね。言葉ではなしに、歌で伝えることが出来たらと、時々そう思ったりします。太古には、そういう方法での仕事が行われることが多かったのです。しかし、今夕はそういう事を話すのが目的ではありません。皆さんの注意と愛を私どもに向けて下さいませんか。今夕は、どの人にも運命となる神秘体験について語りたいと思っていますのです。そういう霊的体験をみな私たちは通過して行くのです。これは話したり書いたり出来るものではありません。でも、天界の栄光の光を一瞥いちべつしたり、真実の故郷である天界の喜びを経験したり、そういう事が時としてあるでしょう、あれ

が靈的神秘体験です。この場合、靈能力開発のために何か特定の計画をたててやってみても、殆んど効果がありません。なぜかという、個々の魂の踏む経験はみな違うからです。よくこういう誤りを犯す行者がいます、知り人を特定の一つの道に進めようとしてですね。それで私どもはこう申します。

さて、この連続講話を「道」と呼びたいと思います。魂の誕生から、人間が経験を積んで行く道程をこの講話で語ります。そうして、やがてイニシエーション（魂の得度）の意味にまで至ります。現に、イニシエーションで戸惑っている人が多いですね。実際に魂の成長と開花がどういう過程を通るのか、それが分からないのですね。それでここまでを語ります。

## 道はそれぞれ人により違う。しかしすべて善

正しい道は一つとは限りません。個々の魂によって辿る道は違うのです。前でどんな生活をしたか、それによって違ってくるのです。すなわち本人の作ったカルマがあつて、それによって違ってくるわけです。このカルマは何らかの人生を辿ることで解かねばなりません。つまり、それぞれ独自の鍛練のコースを通らねばならぬということです。光はさまざまの形と、いろいろな色ガラスを通して輝きます。しかし最後には、すべての色が一つの光線に混じり合つてしまいます。即ち神である大いなる白光一つに。

このことをもっとハッキリ語りましょう。私たちは自分固有の道をしっかりと歩まねばならぬのです。唯もうひたすらに。私たちの道は隣の人の道ではない、隣の人の道も私たちの道ではない。ここで肝心なことは、次の広い視野と理解

を持つことです。どの道も善なるものである、本人の意識のレベルに応じて、本人固有のカルマに応じて。また、人類の靈的進化を目指す大いなる計画の必要に応じて。

## 知識だけでは人の成長はない

私たちは次の点を強調したい。靈的な鍛練は心よりも深く行かねばならない、また永続する効果をもつためには生活とならねばならない、その新参者の現実の生活の部分とならねばならないと。ある男性ないし女性に、音楽の顕著な知的知識があっても、それで音楽家になれるわけではありません。同じ意味で、人間の知的な側面の発展は有用ではありません、やがてその人が神の壮麗な宇宙を理解するためには。しかし、オカルト知識があっても覚者にはなりません。

むしろ驚くべきことなのですが、覚者や聖者の生涯に目を向けると殆んどすべて次のように言えるのです。光り輝く彼（彼女）らは世上の知識に大きな関心を払わない、いわば素朴な人物であったと。ナザレのイエスの生涯もそうです。ただ霊的な記録で調べると、賢者たちから沢山の知識を吸収しましたが。またその純粹さが奔流となって東方の知恵の中心におもむかせ学習につとめました。ただそれはその時、キリスト霊の浄化を希求する激しさの余り、そうなったのでした。

現在では、多くの人々が熱心に知識を追い求めます。彼らはメンタル・ボディ（知性体）を開発しつつあるのです。これは進化の過程にあるということ、つまり進化の一段階なのです。だが、これでは精神で知るということにはなりません。なぜなら、このような知識には限界というものがあるのです。霊的成長というもの、魂が霊的真理を吸収し消化して、単純な霊的な法を日常生活で実践して、



その結果成長があるのです。これはひとえに内的生命が真摯しんしであるか、純粹であるかにかかっています。また、天界の精妙な波動に魂が応えるかどうかにかかっています。人はこのとき疑いもなく、他から来るものを読みとろうとワクワクし夢中になっています。しかし、その人が経験するものはその人独自の一人のものです。このことを覚えておきなさい。

## 池に落ちて知る靈的真理

ホワイト・イーグル・ロッジへは、単純素朴さを求めて人々が集まります。中には、ここの教えはさほど進歩したものではないと感じる方々もいます。でも、こうした考えは不消化な食物をむやみに欲しがることになります。これが肉体本能の自然です。脳は肉体の一部ですからね。私どもは人を怒らせた

くありません。しかし皆さんにとくと考えて頂きたいのです。こうしたもつともつと知的なものを、不消化なものを欲しがれば、その先はどうなるでしょう。単純な真理が身につき、それが自分のものになる前に、やみくもに靈的な秘儀を先に知ろうとすれば、それは良いことではありません。そんなことをすれば、鋭い刃の武器に突進するようなもので、身を傷つけます。靈的な輝き、その結果としてのイニシエーション（魂の得度）は、世上の知識で得るのでなく、靈的經驗を通じて得られるのです。日々の神との接触、善とのかかわり、つまり高い心を実践すること、これこそが唯一つの靈的成長に至る道程です。

私どもは数多くの辛い人生經驗を目にしてきました。そんな時、心に疑問が起ることがあります。「なぜ、守護靈は助けてくれないのか」「なぜ守護靈は誤りを犯さないように防いでくれないのか」「守護靈がいるのに、なぜハマをしたり災厄にあつたりするのか」「分かってさえいたら、あれもこれもせずにはすん

だのに」と。この先に起こる事を知りたいと思うのは当然です。知ってさえいれば、馬鹿な目にあわずにすみますからね。池のぐるりを廻る方が、池に落ちるより、よほど快適ですからね。でも、もし池に落ちれば、泳ぎが教わるというのであれば。もし靈的な池に落ちれば、靈的な光輝が得られるというのであれば。何かの美しいものを貴方の身に欲しいというのであれば——されば、池のまわりをぐるりと廻る楽な道をお選びなさるな！

人は明るい所を歩くとともに、暗い所も通り抜ける心構えが必要です。人生を真摯しんしに生きるには、私共はこう申したいのです。皆さんは為すべきことを避けたり、困難に腹を立てたりせず次のように言いなさい。「もし、私がこれを受けねばならないのなら、よろしい、私にやらせて下さい」と。平静であれ、勇気をお持ちなさい！ かりにささいな不愉快な事であっても、為すべき事をサボりなさるな。人生の悲しみや落胆から逃がれようとなさるな。これらはみんな

貴方にとってチャンスなのです。

私どもは良い事、悪い事、そのどちらをも語ります。そこにどんな違いがあまりでしょうか？ どちらも同じ先生ですぞ。

## 魂の誕生から、目覚めに入るコース

人の魂は物質世界に足を踏み下ろした時に、進歩の永い人生行路のスタートを切ります。魂 (soul) は霊 (spirit) が物質に自己顕現しようとする生命から、その第一歩を印するのです。今話しているのは魂のことです。神の火花——魂のはるか誕生以前から存在するもの——のことはありません。さて、魂は小さな赤ん坊のようなものです。数多くの生の間、教導の手をとられ、保護の方々  
の助けを受けながら歩む、子供の状態が続きます。それから、子供時代が過ぎ

て、男ないし女になる時を迎えます。そのとき初めて、これから先人生を導いていく光を目にします。この光を目にする時、大きな責任がそこに生じるのです。それまで無邪気で暗闇の中を歩き、いま前途に道を目にした時、魂は己が道を意識する者となるのです。魂が道を意識する者となるや否や、責任がその魂の上に置かれます。その時から、責任は本格的に作用し始めます。もし人が責任を回避し、彼が一度目にした光にその背を向けるなら、その者は悲しみを背負う者となります。なぜなら、そのことは神法を破ることになるからです。

さて、魂が意識しつつその足を先ず踏み出す時、試練が、人生のテストがやって来ます——悲しみ、ごたごた、難題、そしてしばらくの間は何もかも混乱して見えます。本人は一生懸命正しくやろうと努力していても、五里霧中のような感じになります。人間関係もいろいろな問題も、お手上げです。それから、精神の迷いが渦を巻いてやって来ます。遂にはどっちを向いて歩けばいいのか、

何をどうすればいいのかと。このときです、何もかも投げ出したいという誘惑にかられるのは。「もうこの事でくたびれた、もうやっていけない。これまでは世間の事はずっとうまくいっていたのに」と。この時が「うまずたゆまず歩く」決断をあなたがせねばならぬ選択のチャンスです。平静に、神の愛に全幅の信頼をおいてですね。なぜなら、イエスもこう言いましたね、「神の子の来る日も、来る時も、あなた方は知らない」と。光り輝く経験があなた方のものとなります。大いなる目覚めが貴方を訪れます。その時をあなた方はご存知ない。今夜はあなたは闇の中にいるかもしれない。でも明日は光り輝くものになれるでしょう。あなたが霊の真実の家に入る時、平和と、安静と、喜びが訪れます。貴方は、あなたが足を置いた道をしっかりと、心安らかに歩いて行くでしょうよ。

## 神に至る道は人に代わって貰えない

右に述べた誘惑は万人を訪れます。その人の経験はその人独自のものではありません。それぞれの魂が学ばねばならない教訓は、人類すべてに共通のものであります。その魂には、その魂個有の形でその経験は与えられはしますが、あなたはあなたの兄弟の経験から学ぶことは出来ません。その兄弟はあなたから学ぶことは出来ません。つまり、人は他者の経験を完全無欠に知りつくすことは出来ないのです。あなた自らがそれを身にうけて経験するまでは。すべての魂は同じ問題に直面せねばならないのです。同じ教訓を学習するためには。しかしあなたが経験することは、あなたの置かれた独自の環境でそれを学習する限り、あなた固有のものであります。ですからそれ故に、あなたの経験は隣人が経験する事とは全く同一ではあり得ないのです。

皆さんは短兵急にこう言われる、「なぜ、誰某がこれをするのか分からない。なぜ何某があれをするのか分からない」と。しかし、心に刻み付けておいて頂きたい、すべては神から出ています、すべてが同じ質をもっています。そして、すべてが困難を、試練を、誘惑を克服させます。それはあなたの場合と同じように。すべてにあなたの愛と善意を送りなさい。あなたはこう考えるかもしれないですね。「こんなこととも子供じみてる。繰返し繰返しこれを聞くなんて真平だ!」と。でも、これらの事が霊的進化のまさにエッセンスなのです。万人が己がじし歩まねばならない神秘を己がものとする道なのです。すなわち大いなる白光の殿堂へ、聖杯の神殿に入る、それが道なのです。



## 祈り

聖なる霊よ、御身に感謝します。美しいもの、進歩を進めるもの、我らが生にそそがれる嘉きものすべてに。決して、私どもがあなただの愛を忘れることがありませんように。兄弟たちがあなたの愛を必要としていることを、私どもが決して忘れませんように。この暗い人生のあちこちに御身の光明が輝く、その通路に我らがふさわしい者と、どうぞなりますように。